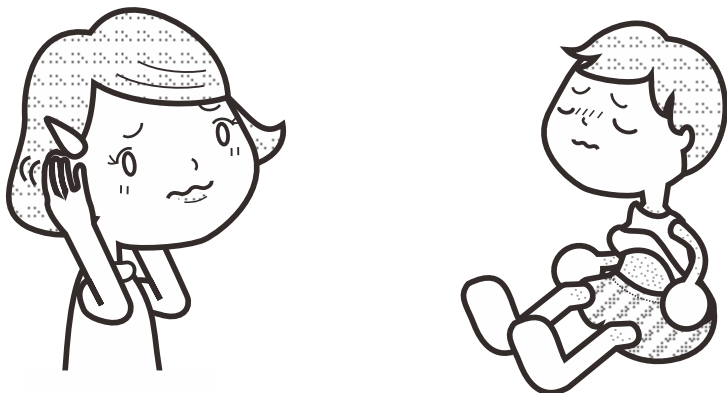


# 子どもの病気④

## 中耳炎・突発性発疹



### 宣言

明るい  
笑顔

すぐ  
返事

伝える  
元気

かちどき薬品 ホームページ  
げんき君 健康に関する情報がいっぱい  
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ



かちどき薬局のブログ  
[ameblo.jp/kachidoki-blog](http://ameblo.jp/kachidoki-blog)

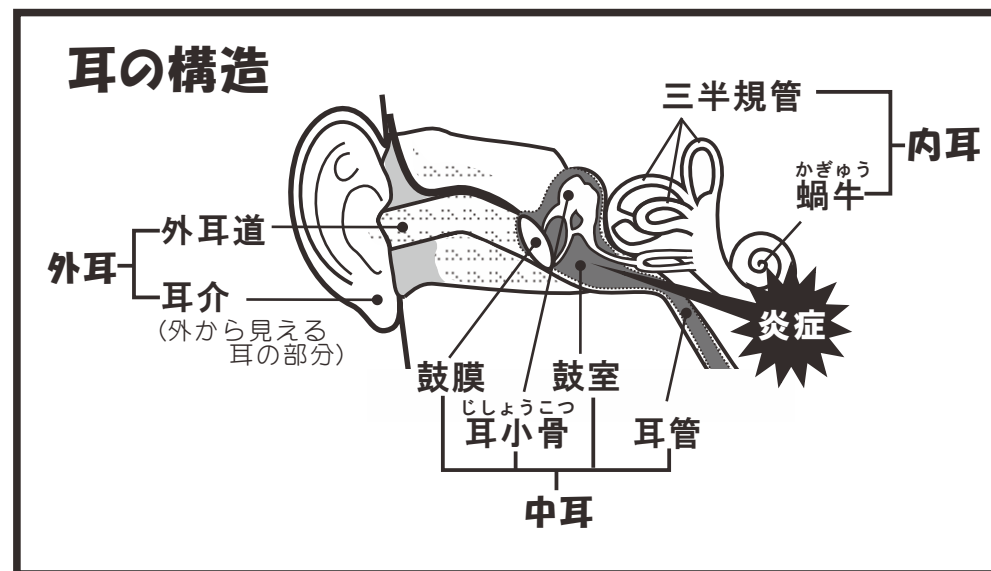


Seedling 2019 7月号

Copyright © 2019 かちどき薬品株式会社 <http://kachidokikk.co.jp/>  
健康情報サイト げんき君 <http://genki1616.co.jp>

## 急性中耳炎

細菌やウイルスが鼻と耳の奥をつなぐ管（耳管）を  
経由して、中耳の粘膜に侵入し炎症を起こす病気です。  
5歳以下の乳幼児がかかりやすいです。



子どもは耳管が太く短く、角度も水平に近い  
ため、細菌やウイルスが中耳へ入りやすく、  
大人よりも発症のリスクが高くなります。

風邪をひいた時など、鼻やのどの炎症を  
きっかけに発症することが多いです。



～急性中耳炎～

## 【主な症状】

- ・ 激しい耳の痛み
- ・ 膿のような黄色い耳だれ
- ・ 発熱（38～39℃）
- ・ 耳が詰まる感覚
- ・ 耳が聞こえにくい、難聴



### ＜次のような症状がみられたら注意＞

- ・ 高熱が下がらない
- ・ 機嫌が悪く、ぐずりや夜泣きが続く
- ・ 耳周辺を触ると泣く
- ・ 耳を気にして触る
- ・ 呼びかけに応じない
- ・ 色のついた鼻水が出る
- ・ 首を振る

症状を放置したり、治療を途中でやめると滲出性中耳炎に移行したり、慢性化の原因となります。早めに受診し、治りきるまで通院しましょう。



## 【合併症】

嘔吐やけいれん、髄膜炎、耳の後ろが腫れる急性乳様突起炎を引き起こすこともあります。

～急性中耳炎～

## 【治療方法】

### ●薬物療法

軽症の場合は、抗菌薬を使用せずに治ることが多いです。中等症・重症の場合は、抗菌薬が処方されます。完治には時間がかかるため忘れずに飲みきることが大切です。熱や痛みには解熱消炎鎮痛剤が処方されます。

### ●手術療法

鼓膜が腫れてふくらみ、激しい痛みや高熱を伴う場合は、鼓膜を切開してたまっている膿を出す手術を行います。

### ●鼻・のどの症状の治療

鼻水・のどの痛みなどの症状があれば併せて治療が行われます。

## 【家庭でのケア】

### ●耳だれの処置

中までいじらず、外に出てきたものだけを清潔なガーゼや蒸しタオルでふき取ります。穴の中は医療機関で処置を行います。



### ●耳の痛み

冷たいタオルなどを耳の後ろに当てると痛みが弱まります。



# 滲出性中耳炎

耳管や中耳の粘膜から滲み出た液体（滲出液）が、中耳にたまり、聞こえにくくなる病気です。滲出液は通常、耳管から排出されますが、風邪などで中耳・鼻・のどに炎症があると滲出液がたまってしまいます。3～10歳の幼児に多くみられ、急性中耳炎から移行することもあります。

## 【主な症状】

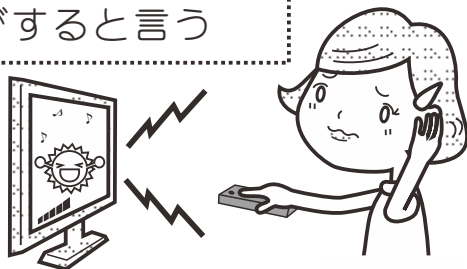
- ・耳が聞こえにくい、難聴
- ・耳の奥で水の音がする、耳鳴り
- ・耳が詰まる感覚



痛みや発熱を伴わないことが多いので病気に気付きにくいのが特徴です。難聴は放置しておくとう日常生活に支障をきたしたり、学習力の低下につながることもあります。変化に気付いたらすぐに受診しましょう。

## ＜次のような症状がみられたら注意＞

- ・テレビの音を大きくする
- ・呼びかけに応じない
- ・大きな声で話をする
- ・耳を気にして触る
- ・耳の中でガサガサと音がすると言う



～滲出性中耳炎～

## 【合併症】

重症化するとまれに、鼓膜が奥の壁と癒着する癒着性中耳炎や、重い難聴やめまい、顔面神経麻痺が現れる真珠腫性中耳炎を引き起こします。

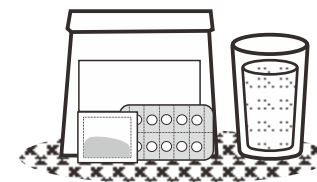
## 【治療方法】

### ●経過観察

発症から3ヶ月以内は自然治癒も期待できるため様子をみます。

### ●薬物療法

滲出液を出しやすくする粘液溶解剤が処方されます。また、鼻や副鼻腔に炎症がある場合はそれに対する薬が処方されます。



### ●耳管通気療法

鼓膜に空気を送り込み、耳管の通りをよくする処置を行います。

### ●手術療法

症状が長引き改善しない場合は、滲出液を取り除く鼓膜切開や、鼓膜にチューブを挿入し中耳を換気し炎症を抑える鼓膜チューブ留置法を行います。

# 突発性発疹

ヒトヘルペスウイルスによる感染症です。  
とくに生後6か月～1歳半くらいまでの乳幼児に多く  
みられます。ウイルスの型が2つ確認されていて、  
2回かかる可能性があります。

## 【主な症状】

- ・発熱（38～39℃）が3～4日続く
- ・お腹や背中を中心とした全身の発疹  
（解熱後に現れる）
- ・下痢

※高熱が出ても機嫌がよいことが多く、  
感染しても高熱や発疹といった症状が  
出ない場合もあります。



## 【合併症】

- ・熱性けいれん  
急に意識がなくなり、体を硬くしたり震えることが  
あります。多くの場合は数分で症状が治まりますが  
けいれんが5分以上続く場合には救急車を呼びま  
しょう。

### 熱性けいれんが起きたら

- ・体をゆさぶらない
- ・嘔吐することがあるので、顔を横に向ける
- ・けいれんの持続時間を計る

まれに髄膜炎、脳炎・脳症、肝炎などを起こすことも  
あります。

～突発性発疹～

## 【治療方法】

特別な治療法はないため対症療法を行います。  
安静にして様子を見るのが一般的です。  
高熱でつらそうな場合には解熱剤、  
下痢の場合には整腸剤が  
処方されることもあります。



## 【家庭でのケア】

### ●こまめな水分補給

高熱が出ると体から大量の水分が奪われるので、  
脱水症状に気をつけましょう。



### ●入浴

子どもが嫌がらないのであれば、サッと汗を流す  
程度は問題ありません。  
入浴後の体温変化によって体調が悪くなる  
可能性もあるので、熱が38℃以上ある場合は  
体をふく程度がよいでしょう。



## 【登園・登校について】

解熱後1日以上経過して全身症状がよいことが  
目安です。必ず医師の判断に従いましょう。